



## 気温はなぜ1.5メートルの高さではかるの

### 地面に近い所ほど、空気の温度が高い

日なたで、地面から10センチメートル、50センチメートル、1メートルの3つの高さの所で、空気の温度をはかってくらべてみると、地面に近い所ほど、高くなっています。これは、地面が太陽の熱を受けて暖まり、そのあと、地面が、地面をとりまいている空気を、じょじょに暖めていくからです。晴れた日の日中では、地面近くと、1メートルぐらいの高さの所では、温度が5～6度もちがうことがあります。

このように、地面の温度の影響を受けるので、地面に近い所では正しい気温がはかれません。地面の熱の影響を受けるのは、地面から1メートルぐらいまでで、それ以上の高さでの空気の温度は、日なたでも日かげでもほとんど変わりません。人間のせたいけのことも考えて、地面から1.2～1.5メートルの高さではかることにしたのです。

### 温度計の球部に、直接日光があたらないようにする

気温を正しくはかるには、ふつう、百葉箱の中の温度計ではかります。百葉箱がないときには、風通しがよく、日光が直接温度計にあたらないように、日よけをしてはかるか、日かげではかります。空気が日なたで暖められ、温度が上がっても風通しがよいと、日かげの空気とまじりあうので、日なたと日かげの空気の温度にちがいはありません。

#### 百葉箱のしくみ

(監修・村山 貢司)

